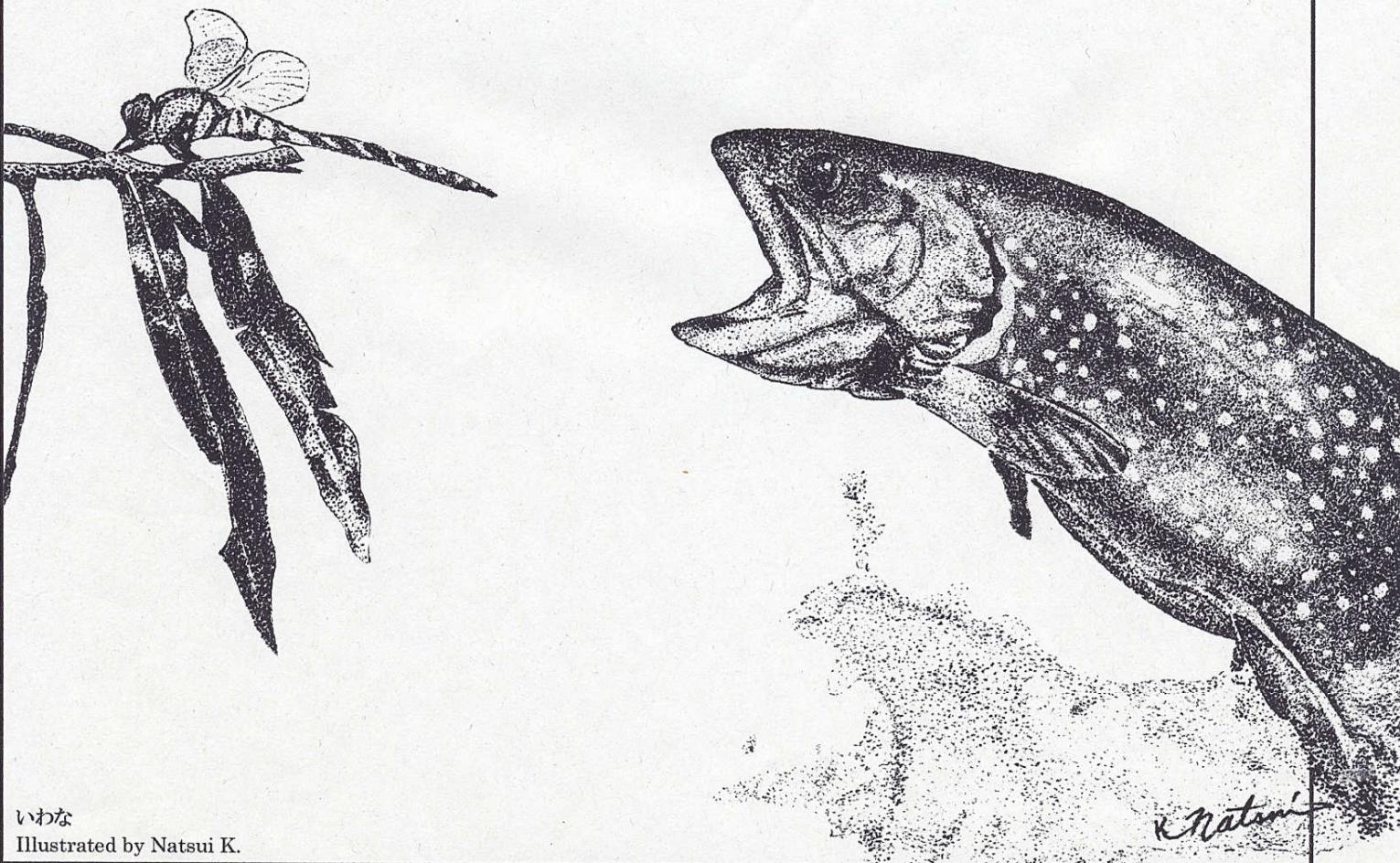
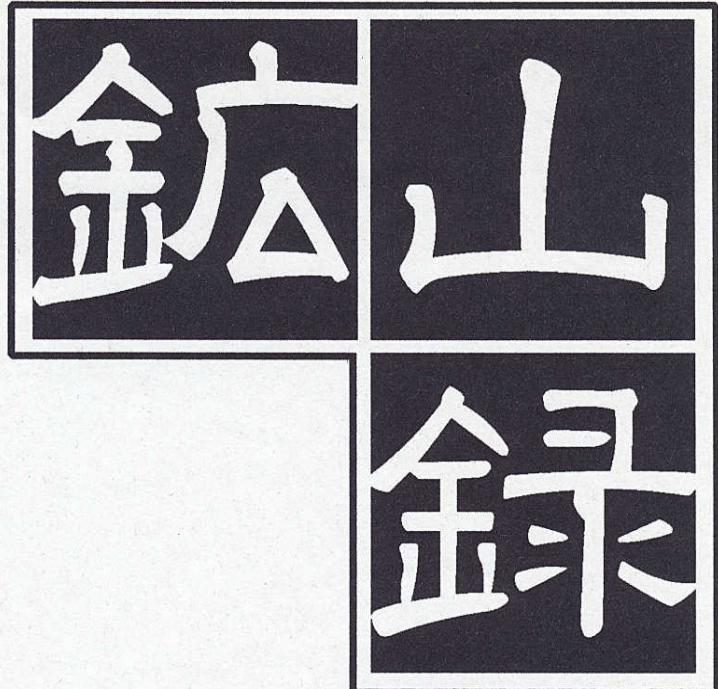


The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉱山
ニュースレター



いわな

Illustrated by Natsui K.

Nature

Contents

Vol. 6
Oct. 2003

特集

プログラマー「上田 融」の世界	2
オープンから 17 ヶ月の活動報告	4
使える小ネタ集	5
リトル・ヴォイス～リレーエッセイ～	7
お知らせ&わいわいどれしひ	8

自分が
おもしろいと思ったことしか、
うまく伝えられない。

岐阜の実家に帰ったとき、今のはくの仕事を評して、オフクロに言われた。「アンタが今その仕事できるのは、わたしらが仕込んだおかげやで。」事実その通りだと思う。昭和の終わり、ぼくが通っていた小学校でも「子どもだけでは川で遊んでいけません」というプリントが配られた。「責任の持てる大人」と一緒にやなきゃ川に行ってはいけない。両親がそんなプリントを見て何か感じるものがあったのか、それとも単に遊園地に行くお金をケチつただけなのか、夏はとにかく家族で川に遊びに行った。長良川や、その支流。海パンと、シュノーケルと、ギヤング針と、しょぼいゴムボートを使って、唇を真っ青にしながら一日中泳いでいた。ガケから飛び込んだり、大きな石を抱えて、息の続く限り深い淵の底を歩いたり、アユをひっかけようと、ひたすら瀬で待ち構えたりしていた。おもしろかった。

川遊びから学んだことが仕事になった。
川で遊ぶ事が普通だった。
川がきこそ上田のルーツなのかもしれない。



…そんな経験が自分にどの程度役に立っているのかはよく分からぬが、最近ひとつはっきりしたことがある。「夏、子どもたちが思いっきり楽しめるプログラムを作って」と言われると、じっくりあれこれ考えたのち、結局ほとんどのプログラムに川遊びを入れてしまうのだ。やはり自分がおもしろいと思ったことしか、人にうまく伝えられない。「ウエダはいつも川ばかり入らせる」とスタッフに文句を言われるが、おもしろいんだからしょうがない。

そんなことより、今、子どもを川に連れて行き、遊ばせることのできる大人が世の中に何人いるのだろうか。もしいないのなら、ぼくが、その配布されたプリントのいう「責任の持てる大人」になろうと思う。川に連れて行くのは、親じゃなきゃいけないとは思わない。他の人よりちょっと川に詳しい、信頼できる地域の誰かが連れて行けばいい。「プログラム提供」を通して、そんな地域の人になりたい。

学校は
決められたことを
決められた範囲で
教える場所なんだ。

旅先で知り合った、とある旅人。彼は、何と耕うん機に乗って知床から西表島まで行く途中だという。そのいきさつを本にするのそうだ。そう語る彼の姿は実にカッコよく、シビレた。「こういう人の姿こそ、子ども達に見せねばなるまい」と思ってしまった。よく聞くと、明日北海道での旅を終え、苫小牧からフェリーに乗るというではないか。ぼくはその頃苫小牧の小学校に勤めていたから、急いで「ぜひうちの学校に耕うん機で来てほしい、そして、クラスの子たちに話を聞かせてやってほしい」とお願いした。「よし、語ろうではないか」と二人で大いに盛り上がり、じゃあ明日、というところで…、校長に、どうやされた。

「そんなどこの馬の骨かも分からんやつを、教室に入れるわけにはイカーン」「たとえ横綱であっても、アムロナミエであっても（ホントにそう言ってた）校長の決裁が無いものを通すわけにはイカーン」「そいつが来るのは、年度当初から計画にあがっていたのか?」「お前、分かってないな」…、結局旅人は、子どもたちの前に現れることはなかった。そんな、タビビトに年度計画なんてないのだ。ぼくはその晩、号泣した。

今は、校長の言うとおりだと素直に思える（というか、そんな無知でアツい自分を思い出すとハズカシイ）。学校は、決められたことを決められた範囲で教える場所なのだ。そのとおり。今のはくは、それを心から理解できる。だから、こう決心した。

「いつか、絶対に学校にはできないことをやってやろう。」今のはくが作るプログラムの根底には、そんな若かりし頃の熱い思いが流れているような気がする。

上田 融の 世界

ふおれすと鉱山の様々な事業。
多くの人々が虜となる
その懐かしくもテクニカルな
技巧のルーツは
いつたいどこにあるのか。

衝撃だった。 ありふれた事から、 ここまで感動を 引き出せるのか！

大学生の頃、ある野外教育団体に所属し、「キャンプのお兄さん」をやっていった。都会の子たちをキャンプ場に連れて行き、キャンプファイヤーなんかやっていた（これも、ハズカシイ）。その頃のぼくは、子どもたちの前でうまく立ち居振舞うことに酔っていた。「何を伝えたいか」なんてたいして考えもせず、ひたすら天狗になっていた。そんな天狗が出会ったのが、「暗闇

のロウソク」という活動だった。漆黒の森にドキドキしながら入り、暗闇の中で、片目だけでロウソクの火をじっと見つめる。突然火が消える。すると、右目と左目で、周りの見え方がぜんぜん違う！驚きと興奮が収まった頃、静かに森や夜の動物の話が始

まる…。天狗の鼻は、根っこから折れた。単に眼の「暗反応」を利用した、ありふれた活動なのだけど、伝えたいねらいと、そこに行きつくためのストーリー。心憎い演出、細やかな準備。ここまで感動を引き出せるのかと、衝撃だった。

それはまるで、
脚本家や
作曲家のような作業だ。

「ねらいと流れのあるプログラム」作りを志したのは、そのときがきっかけだったような気がする。それ以来、できるだけ「ねらい」と「手法」がスムーズに流れるプログラム作りにこだわるようになつたのだが、実際作るのは本当に難しい。物語を作るわけだから、まるで作家や脚本家、あるいは作曲家のようなセンスが必要なのだ。「ない知恵を絞る」とはまさにこのこと、日々生みの苦しみを味わいながらプログラム作りを続けている。でも、こんな活動を始めて、そろそろ10年。こんなぼくにも、そろそろ伝えたいことが見えてきた。だから、苦しいけど、もう少し「プログラムによる自然体験の提供」にこだわっていきたい。

Text:上田 融



ふおれすと鉱山の事業を統括するプログラムディレクター。主催受託を問わず、ふおれすと鉱山で実施される全てのプログラムを手がけている。ふおれすと鉱山のスタッフをたばねる牽引(けんいん)役も引き受けている。

木々の葉が色づきはじめた先日、ふおれすと鉱山で前川社中主催の茶会が開かれました。前日からの準備で、掛け軸や茶器などが置かれた和室は、見事な茶室に変貌しました。当

日は前川社中の皆さんが朝早くから、茶会の前に振舞う、お蕎麦の準備で大忙し、和服の方も多く華や

ふおれすと鉱山 「山里の茶会」

に、これに触発されたのか、深まる紅葉の中での茶会も一興かと、ももんが社中？の野点を二六日に行うこととなり、現在、スタッフは茶会の作法を猛特訓中

かで、普段のセンターヒーとは雰囲気が大違いました。茶会は、三席開かれ九十人のお客様が見えられました。ふおれすと鉱山町にこの様な施設があることにびっくりされていました。ネイチャーセンターでの茶会、何か奇異な感じがしていましたが、参加された方々は鉱山の秋を楽しみながらの茶会に大満足の様子でした。

かで、普段のセンターヒーとは雰囲気が大違いました。茶会は、三席開かれ九十人のお客様が見えられました。ふおれすと鉱山町にこの様な施設があることにびっくりされていました。ネイチャーセンターでの茶会、何か奇異な感じがしていましたが、参加さ

オープンから17ヶ月の活動報告

6月	
3	蘭東中炊事遠足
5	伊達ネイチャーウォッチングクラブ
7~8	主催事業「川の安全と遊び講習会」
10	緑陽中炊事遠足
15	主催事業「クマってホントに危険なの?」
17	向陽中炊事遠足
19~20	若草小5年生宿泊学習
21	ボイスカウト研修会
22	ブラインドボランティア
24	青葉小4年生理科
25	特学中宿泊学習
28~29	しらおいコミュニティネットワーク
29	フラワーソン報告会

7月	
1	若草小4年生
2~3	青葉小5年生宿泊学習
3~4	幌西小5年生宿泊学習
8~9	幌東小5年生宿泊学習
10	温泉中総合
13	言葉の教室
15~16	特学小宿泊学習
17~18	登別小宿泊学習
19~20	ボイスカウト
20~21	しらおいコミュニティネットワーク
22~23	鶴川町立花岡小宿泊学習
24~25	温泉小宿泊学習
25~26	フリースクールいすみの学校
26~27	JCキャンプ
29~31	わかすぎ学園

8月	
1~3	主催事業「ジュニアチャレンジキャンプ」
5~6	若草小6年生学年レク
7	主催事業「コーナン全開あそび」
12~17	主催事業「夏休みスペシャルウィーク」
14	モモンガくらぶ「アクセサリー作り」
21	青葉小3年生図工
23~24	小宮バレエスタジオ
26	青葉小6年生理科
27~28	鷺別小5年生宿泊学習
30	幌西小3年生学年レク

6月、7月
8月の
すべての
活動状況

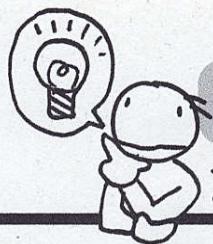
ジュニアチャレンジキャンプ

今年も子どもたちは大人が考える無理難題に挑戦です。

募集定員がたった20分でいっぱいになってしまふ「ジュニアチャレンジキャンプ」。今年度からは、全面的にふおれすと鉱山プロデュースで行われることになりました。今まで多くの人たちに支えられてきた人気のあるキャンプです。その「伝統」を受け継ぎつつ、それでいてふおれすと鉱山ティストをどう付け加えていくかに重点を置きながら、準備が進められました。

当日は案の定、雨。それでも子ども達は「グループビバーク」なんていう厳しいプログラムに積極的に取り組み、なんと、豪雨の中寝袋とブルーシートだけで一晩を明かしました。さらに強まる雨の中を「沢・滝登り」という冒険に挑み、体中をびしょぬれにしながら、自分たちの課題を克服してきました。「冒険」とは「目標に到達する、という過程においていかに自分と他人のことを深く見つめることができるか」だと思います。二泊三日という時間の中で、どの程度見つめられたのかは分かりませんが、参加した子ども達にとって、あの「非日常体験」が「日常」に活かせる何かであってほしいと思っています。さて、来年はどんな活動をやりましょうか。

(上田 program director)



使える？ふあれすと鉱山 小ネタ集②

ふあれすと鉱山のプログラムは、小ネタ（アクティビティ）の連なり。
ここでは使えるアクティビティを特別にご紹介。

このコーナーはプログラムの始まりに使うネタの紹介です。これがどんなプログラムをやるのかを共有すること、そして参加者どうしの緊張をほぐしたり（アイスブレイキングと呼びます）、プログラムへの熱意を高めるために使われます。

さすらいのギャンブラー

例）これから色んな道具を使ってキャンプを始める。なんていう場合

用意するもの：手のひら大のカード（厚手のもの）一人あたり5枚、マジック

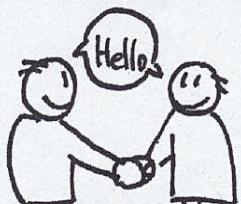
- ①一人あたり5枚ほどの分量の
カードに「キャンプに必要だ」
と思われる道具を書きます。

20人いたら100枚のカードにひとつずつせ
っせと道具の名前を書くことになります。
「え？ こんなのは使うの？」みたいな道具を
入れるのも面白いです。

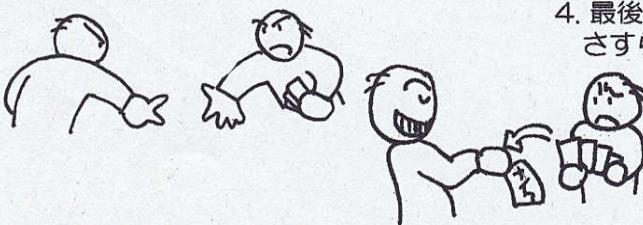


- ②カードをシャッフルし、一人5枚ずつ配布します。（あらかじめ5枚セットにしておくとスムーズに配布できます）。参加者は、渡されたカードに書いてある物が必要なのかどうかを考えます。

- ③いよいよココからが本番です。「よーいスタート」の合図で旅に出ます。周りの人人がどんなカードを持ってるのか見て回ります。そして「あっ！ あなたのそのカードがほしい！」となったらギャンブラーとして勝負がはじまります！



- まずは「よろしく」の握手から始めます。
- そして、気合をこめてじゃんけんをします。
- 勝った人は負けた人から好きなカードをもらいます。
負けた人は、たとえそれが必要なカードでも取られてしまうのです。
- 最後にしっかり挨拶をして、次の相手を探しに、またさすらいます。



時間があれば、第二ラウンドとして「勝った
ら何枚もらう？」といった賭け数を自由にした
り、破産した人を救うための「質屋」なん
てのを用意しても面白いです。

- ④制限時間内（せいぜい3分くらい）の中で、どれだけ自分の
ほしいカード、つまり道具を集める事ができるかが勝負で
す。



- ⑤最後に、みんなで話し合いながら「キャンプで本当に必要な
物」「そうでないもの」というように分類し、分野別に貼り
出します。そして、みんなでどんな道具をどう使うかを話
合ったり、イメージを膨らませます。



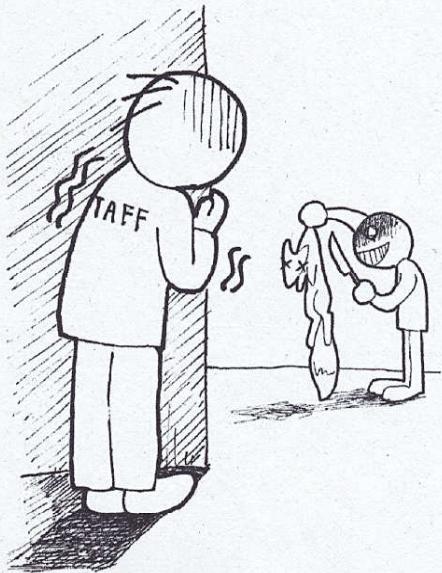
準備はちょっと大変ですが、かなり盛り上がります。キャンプだけでなく、こ
まごまと色々な道具を使う工作プログラムの導入にも応用できます。やはりじや
んけんは遊びの王様ですね。

（上田 Program D）

私の鉱山のイメージというと、年に一度、春の山菜シーズンに来るだけの山の印象でした。が、ふおれすと鉱山に勤めるようになって、鉱山町の歴史などの話を聞いたり、自然環境のこと、動物、植物、魚たちのことを観たり聞いたりすることで少しずつ意識が変わってきました。それでも、虫が出たと言って大騒ぎをしては、他のスタッフが捕まえて窓から逃がしてあげているのを見ると、私とは違う世界の人たちかも。と思ったりします。

「鉱山町で働いている」と言うと、「熊が出るんでしょう?」などと言われたりしますが、今は、もう少し自然の事を知って欲しいなあと思う自分に驚いたりします。

それでもやっぱり自然が得意ではないことが、来られた方に伝わってしまうのか、先日宿泊に来られた方に「あなたはどこの団体で泊まりに来たの?」と聞かれてしまいました。ユニフォームを着ていたにもかかわらず、スタッフに見られない私が少し悲しかった・・・。(S)



猛禽類たちのひみつ

えんどうめぐみの 森のひみつシリーズ⑥



オオタカ（幼鳥）

※猛禽類とはワシやタカ、フクロウなどの主に動物を食べる獰猛な鳥類のこと。
その姿は多くの人の心を捕らえて離さない。

ここ鉱山町の上空は、猛禽（もうきん）類たちの渡りのルートになっています。渡って行く彼らを見ていると気づくことがあります。

猛禽たちは、生育環境に適応した形態をしています。例えば、クマタカやオオタカ、ハイタカたちは、主に森の中で生活しています。木や枝などの多くの障害物を避け、小鳥やネズミなどの小型哺乳類を捕食しています。そのため森の中でも急旋回・急停止できるように、翼が厚く、短くなっています。また、ノスリやハヤブサは、主に草原や海岸など開けた場所で生活しています。すばやく逃げる小鳥たち

や小型哺乳類を捕食するため、さらにすばやく飛行する能力を持っています。ノスリは、木の枝などから地上を見張って獲物に襲いかかる方法か、空中から地上の獲物を探す方法で狩りをしますが、ハヤブサは、空中で急降下して狩りをします。そのため、翼が細く、長くなっています。なかには、渡る猛禽たちはいます。渡りをする猛禽たちは、長距離を飛ばなくてはなりません。なるべく無駄なエネルギーを使わず遠くまで飛ぶために、上昇気流などを利用します。また、ハチクマなど、細く長い翼を持って飛翔能力を高めている種類もいます。

猛禽たちの翼のかたちひとつからでも、いろんなことが見えてきます。たまには秋空を見上げて、猛禽たちの生活に想いを馳せてみるのもいかがでしょうか。

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

遊びと学びは表裏一体

鈴木 貴寛

学校週五日制が完全実施され、学校の教育課程に「総合的な学習の時間」が設けられてから、以前にも増して「体験学習」という言葉を耳にするようになりました。実際、子ども達もその機会が増えているのではないかでしょうか。

私が今回、ボランティアのスタッフとして参加する機会に恵まれた、ふれると鉱山主催の「ジュニアチャレンジキャンプ」も、冒険をテーマとした体験学習の事業でした。

異年齢・多地域から参加があり、自然に囲まれた空間での宿泊ですから、子ども達にとっては、非日常の世界が広がっているわけです。参加した子どもたちには、学びに来たという意識はほとんど無いかもしれません。どちらかというと、遊びに来た・楽しみに来たという感覚が強いという印象を受けます。しかし、その感覚こそが体験学習の長所であるのではないかと思うのです。

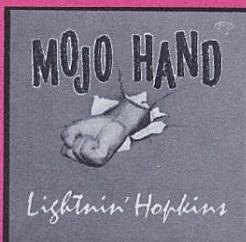
遊びを通して何かを学ぶ。楽しみながら学ぶ。子ども達にとっては、同じだけの時間、講義型の学習をするよりも取っ付きやすい上、実際に経験することで、ごく自然に学習成果が身につくのではないでしょうか。自分自身、子どもの頃に遊びの中で覚えたこと・学んだことは、大人になった今でも活用できることが多いような気がします。

遊びは学び。私は子どもたちに、「いっぱい遊べよ！」と言いたい。



現在はボランティアのスタッフとして多方面からふれると鉱山をサポートしているが、鉱山の夏のメインイベントである「ジュニアチャレンジキャンプ」を初年度から7年間にわたり仕切ってきた、ふれると鉱山の活動のパイオニア的存在。登別市役所に勤務。

オススメBOOKS from STAFF



「モージョ・ハンド」
ライトニン=ホプキンス
Fire Record

本というか、今回は音楽の紹介です。ブルースは魂の音楽です。ヒットチャートに現れることは滅多にありませんが、現代のポピュラー音楽、ロックもジャズもR&Bもゴスペルも、ブルースから生まれました。それは人間の魂の奥底でくすぶっている音なのです。

かつて、南部の黒人達が綿花栽培の奴隸として扱われていた時代、わずかな自由から生み出されたワークソングから発祥したブルースは、白人に抑圧された彼らの魂の叫びでした。だからその音には命の臭いがぷんぷんします。僕はそれを「泥臭さ」と形容しますが、その泥臭さNo.1のブルースを歌うのが今回ご紹介するライトニンホプキンスです。ギター一本からはじき出される音と命を絞り出すような歌声は、きっとあなたが忘れてしまった心の扉をノックすることでしょう。

EVENT INFORMATION

ふれすと鉱山の主催事業

イベントチエック

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 10月25日（土） | 大人遊びシリーズ
「鉱山流秋の楽しみ方」 |
| 10月26日（日） | 幼児シリーズ「落ち葉で遊ぼう」 |
| 11月16日（日） | 鉱山の森整備プロジェクト
「みんなで作る森づくりセミナー②」 |
| 11月30日（日） | 大人遊びシリーズ
「冬の森の動物に会いに行こう」 |

鉱山の森整備プロジェクト

みんなでつくる 森づくりセミナー

鉱山の森を、みんなが憩える森にする計画
が始まります！あなたが欲しい「こんな
森」。一緒につくりましょう。

①10月19日（日）

森の達人と鉱山の森を歩いて、どんな
森にしようか考えましょう。

②11月16日（日）

森の達人の意見を基に、どこをどんな
森にしていくか、具体的な計画を立て
ます。

イベントのお問い合わせ・お申込みは「ふれすと鉱山」

TEL.0143-85-2569

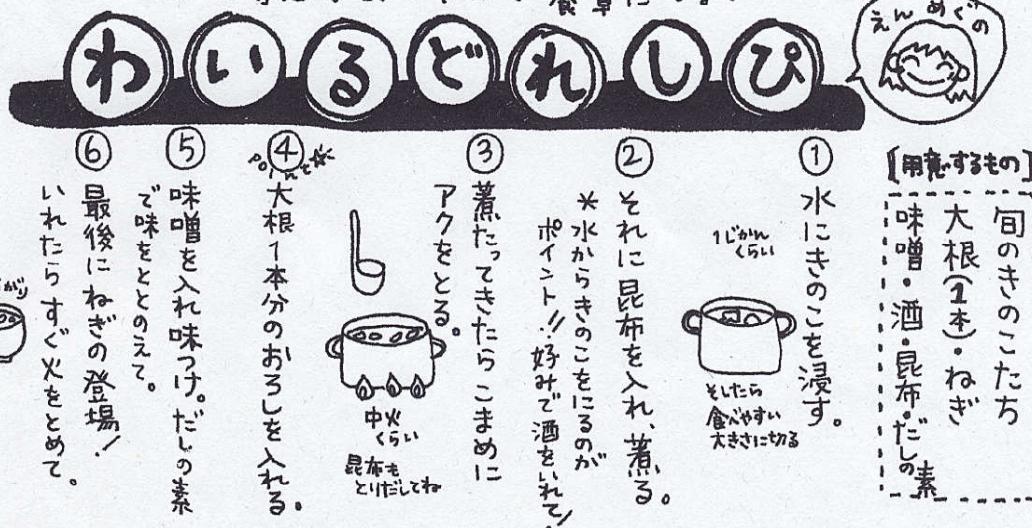
FAX.0143-81-5808

まで、お気軽にどうぞ。

。。身近な野の草花を 食卓に。。

旬のきのこ汁

森のめぐみをあすと
味わいをどうぞ！
決めては
きのこ博士おじさんから直伝の作り方



オコジョ
(佐藤 南津子)

ふれすと鉱山ご利用のご案内

開館・9:00～17:30

入館料・無料

休館日・毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります）

・工作室・図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。

EDITOR'S LOUNGE

最近、音楽は本当に世界を救えるのではないかと思った。どの国の旋律ですら、その感情の波は人の心に届くと気づいたからだ。そしてそこには「言葉」こそ無縛な世界がある。音楽という決まりさえあれば、地球の裏側の人々とも一緒にいられる。そんなコミュニケーションもあるのだなあ。音楽の秋。いいね。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.6

発行：2003年10月

発行所：〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号：0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808

E-Mail : kouzan@pluto.plala.or.jp

URL : www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm